

講義名	(対面) *中国語 B		
科目区分	グローバル		
担当教員	森 宏子		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>この授業では中国語の基礎を学びます。中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン(中国語音のローマ字表記)がきちんと読めることです。私たち日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見るとなんとなく中国語を理解した気分になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。テキストでは基本的に活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 中国語学習を進めていく上での基礎的知識(発音、ピンイン表記)を身につける 基本的な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができる 基本的な文の意味を理解でき、書くことができる 			

提出課題			
<p>毎回、課題があります。課題は主に授業で学んだ文法のドリルなどになります。課題提出はRYUKA Portalの「レポート提出」から提出してもらいます。</p>			
課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック			
<p>毎回の課題に対しては、翌週の授業で講評を行います。</p>			

評価の基準			
<p>次の3点を総合的に判断します <ol style="list-style-type: none"> 平常点(出席状況、授業態度) 課題提出 定期試験 なお、この授業は対面授業を予定していますが、状況によって授業形態が変わる可能性があり、授業の在り方が変われば、各評価の割合も変わります。詳しくは、随時授業において説明します。</p>			
履修にあたっての注意・助言他			
<p>教科書は必ず各自購入してください。</p>			

教科書				
.中国語1年め.	緒方昭・小林光考・胡慶華	白水社	2300+税	978-4-560-06928-8

プリント資料及び参考文献				
<p>プリントはRYUKA Portalの「講義連絡」にアップします。</p>				

授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、発音練習 第1課 中国人留学生と知り合う 第2課 携帯の写真を見て 第3課 いっしょに勉強しよう 第4課 ファストフード店で 第5課 Tシャツを買う 中間テスト(状況によって実施しない可能性があります) 第6課 いっしょに遊びに出かける 第7課 花火は何時から 第8課 学園祭 第9課 カラオケに行く 第10課 中国の映画を見る 第11課 韓国を前にして 第12課 空港で 予備日 1-1.5回の授業で1課を消化するペースを基本とする 				

授業形態(アクティブ・ラーニング)				
ア:	PBL(課題解決型学習)			
イ:	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
ウ:	ディスカッション、ディベート			
エ:	グループワーク			
オ:	プレゼンテーション			
カ:	実習、フィールドワーク			

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>(授業前)新しい課に入る時は、事前に単語帳(ワークシート)を別途配布します。単語帳は自宅で完成させてください。また、次の授業で学ぶところにざっと目を通すことをお勧めします。それをするだけでも、授業の理解度が格段にアップします。(1時間半~2時間)</p> <p>(授業後)復習はしっかりと。語学は積み上げ方式です。しかも、みなさんにとって中国語は初めて学ぶことばで、学ぶことすべてが新しく、覚えることがたくさんあります。毎回授業で学んだことを自宅でもう一度振り返り、しっかり理解していくことが必要です。授業時間内にできなかったドリルは宿題とします。(2時間~2時間半)</p>				

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				

実務経験の有無及び活用				

備考				
<p>この授業は「対面授業」を予定しています。</p>				